

第 1 回委員会の振り返りについて

区 分	内 容
開催日時	令和 3 年 3 月 2 9 日 (月) 午後 3 時 3 0 分
場 所	滝沢市市民福祉センター 会議室
議 事	<p>1 滝沢市自治基本条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「第 5 次滝沢村総合計画」の戦略方針を受け、「滝沢村行政体制調査研究会」が発足。この研究会まとめた「調査研究報告書」の中において、「本村のあるべき自治の姿、共有する価値、理念を掲げる自治基本条例を住民総意で策定していくことを目指していきます。」とまとめられている。 ■ 条例制定にあたっては、地域を考える住民組織「たきざわ未来創造会議」において、地域の団体等の集まりに出向きながら、住民へ説明・想いを聞き出すというパブリック・インボルブメントを繰り返し、住民自らの想いや地域で暮らすためのルールを考えた素案としての成果報告書を、当時の村長、議長に提出。その後、庁内のプロジェクトチーム・ワーキンググループでの検討を繰り返し、平成 2 6 年 4 月 1 日に自治基本条例が誕生した。 ■ 滝沢市が目指すのは「市民主体の地域づくり」である。「滝沢市の目指すもの」をうたった自治基本条例は、滝沢市の自治に関する最高規範であり、その思いのもとに、「市民の目指すもの」である地域コミュニティ条例、「議会の目指すもの」である議会基本条例、「行政の目指すもの」である行政基本条例があり、さらには、これらの条例の目指すものを実現するため、総合計画をはじめとする各種の全体計画が策定されている。 ■ 自治基本条例の構成について説明。特徴的なものとして以下のようなものが挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市民憲章を条例に謳っている。 ➢ 地域づくりを推進するために、総合計画について明確化。条例に基づき総合計画が作られている。 ➢ 自治の仕組みを支える大きな 4 つの柱を制定。そのひとつとして、危機管理体制の確立と地域づくりの連携が定められている。
議 事	<p>2 滝沢市自治基本条例検証委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自治基本条例の実効性の確保が重要であり、条例及び地域づくりの検証として以下のとおり自治基本条例に定めている。

区 分	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運用状況の調査等を行う（第34条） ➤ 条例の運用状況や条例に基づく地域づくりについて検証することを目的に、検証委員会を設置する（第35条） ➤ 前2条をもとに、必要に応じて条例を改正する（第36条） ■ 検証委員会の目的は条例の実効性の確保であり、地域づくりや事務事業の具体的な内容がどうであるということではなく、条例に沿ったとおりの考え方・理念で地域づくりや行政の事務事業が進められているかという観点が発証のポイントであり、仕組みと運用状況を調査・研究することとなる。 ■ 検証委員会の構成は、公募、学識経験者、地域の団体からなる10名以内とし、任期は4年となっている。 ■ 進め方としては、関連条例の検証結果、その他必要な資料・情報を提供し、委員会で情報共有しながら、各委員が自由に意見を言い合える場にしたいと考えている。 <p>3 令和3年度の自治基本条例検証委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 行政基本条例の検証結果についての報告や議会基本条例の検証結果についての報告についてと、今後の任期中にどのように検証委員会を進めてられていくのかについてご審議をいただきたいと考えている。 <p><意見等></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 議会基本条例と行政基本条例の自己検証の評価について、市民の目線での取り組みとなるように働きかけないといけないと感じている。 ■ 議会評価委員会については、市民参加、あるいは第三者による評価が絶対必要だと思うので、早急に取り組んでいく必要があるのではないかと思います。
<p>情報共有 意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滝沢市は対外的なPRするものがないと感じている。せっかく、自然は良いものがあるので、そういったものを少しでも地域づくりの中から何か発想していけばいいかなと思っている。 ■ 実際、自治会活動をやってきて、その自治会だけではなくて、やっぱり市全体として地域づくりをどう進めていくのかということは、この検証委員会でも、ある程度一つの方向性を検討していく必要性はあるだろうと思う。 ■ 鵜飼地区の7自治会で組織している鵜飼地域づくり推進委員会が「うかい馬こまつり」を開催している。そういったものを、やはり市全体の取り組みとして引き上げていくというようなことが必要だと感じている。 ■ 今の若い人たちは「地域のために何か動きたい。社会に貢献したい。」という思いはすごく持っているから、上手に巻き込んでいく工夫が必要。 ■ 市内の自治会は、役員が高齢化しており、若い世代や女性といった役員のなり手がないというのが共通の悩みである。市民主体の地域づくりのためには、自治会の果たす役割というのは大変大きいと思う。課題解決に向け、自治会として取り組んでいかなくてはならないと思っている。